



学校だより

横浜市立秋葉中学校

令和7年5月1日発行



電話 811-6773 FAX 813-9438

いま、なぜ「探究」？

校長 柿崎 順子

今年から、中学校の教科書が新しくなりました。(昨年度から継続して使っているものはそのまま使用しています。)

理科の教科書の冒頭には「探究のとびらを開いてみよう」と書かれています。地理の教科書には、「どのように学ぶのか」として「問いを立て、学習を見通す→問いを追究する→まとめ、ふり返る」、国語の教科書には「学習の流れ」として「見通しをもつ→実行する・試行錯誤する→振り返る」、家庭科の教科書には「取り組み方」として「課題発見・課題設定→計画→実行・実践→まとめ・発表→ふり返り・評価→生活にいかす・次の課題へ」と書かれています。他の教科でも似たような「学び方」が示されています。

学習指導要領でも、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」が「探究のプロセス」として示されており、こうした学び方がいま重視されている表れだととらえられます。

文部科学省のホームページでも

総合的な学習（探究）の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること**を目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。

と書かれています。

秋葉中学校の「令和7年度～9年度 中期学校経営方針」でも、「教育課程全体で育成を目指す資質・能力」の一つに「課題を見出し、解決しようとする力」を掲げています。

先日完成した今年度の生徒総会の資料には、生徒会本部の活動方針にこんなことが書かれていました。

1. 秋中を第一に思って、計画的に活動します。

行事や生徒会活動において、その目的を考えて行動します。目的を理解して行動することによって、「何をすればいいのか」「何が必要なのか」「それをする秋中はどうなるのか」が見えてきます。そして、目的を達成するための最善の方法を工夫し、よりよい活動を生み出していきます。

まさに「課題を見出し、解決しよう」とする姿勢が読み取れ、嬉しく感じました。

また、土日に見学した各部の市大会でも、選手たちが「勝利をつかむ」という課題に向けて、これまでの練習で身に付けたことをもとに、格闘している姿を見ることができました。

一方で、忘れ物を保護者に持ってきてもらうために家庭に連絡している生徒を目にしたり、儀式的行事での「正装」等、生徒が自覚して取り組むべきことについて、学校から保護者向けに「すぐー」で連絡を入れている現状もあります。

授業だけでなく、学校の教育活動全体、日常生活等を通じて、子どもたちが自分で課題を見出し、課題を解決していけるように、自分で考えて自分で行動できる力を育ていけるように、どうしていけばいいのか、私たち大人も「探究」していかなければいけないと思っています。